

1. はじめに

近年、不景気ということもあり、中国産などの手軽に安く買うことができる商品が大量生産され、価値の高い伝統産業は、時代の流れと共に、衰退しつつある。また、技術を継承し、発展させていくための後継者が数少ないことも問題視される。

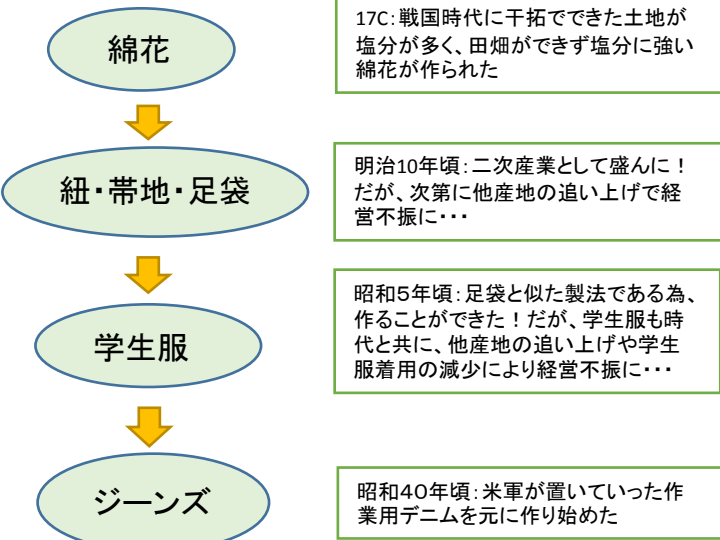
本稿では、このような状況の中、成長し続ける地場産業の代表例として、岡山デニムを取り上げる。

2. 調査課題

かつて児島デニムは、江戸時代に足袋を専門として事業を営んでいたが、時代の変化に関わらず、今もなお、形を変えて産業の発展を遂げている。事業成功への歴史的背景や、分業体制、時代と共に移り変わる消費者のニーズ変化への対応を環境要因、資源要因の観点から明らかにしたい。

3. 調査結果

☆児島デニムの歴史



☆デニムをファッションとして取り入れたのは児島が世界初！

そもそもジーンズは、アメリカで鉱夫らの作業着として開発されたものである。



イメージ図【参照: 画像で振り返るジーンズ142年の歴史より】



【BIGJOHN店頭より】

戦後、日本の闇市でアメリカ人の作業着であるデニムが販売



1965年から国内でデニムが生産される

BUT

糊付けされていて  
硬い!!!

古着の洗濯済みのデニムしか見てこなかった当時の日本人には、糊付けされた生デニムは欲しがらなかった・・・

そこで開発された”ウォッシュ加工”



バリバリに糊付けされたデニムを欲しがらない日本人に対して、洗ってから販売する作戦に切り替えた！

元々学生服が栄えていた児島には、クリーニング屋が軒々としており、大きな洗濯機を借り、洗って販売した。そこから、ダメージ加工などさまざまな加工が生み出され、日本がファッションとしてデニムを取り入れた。



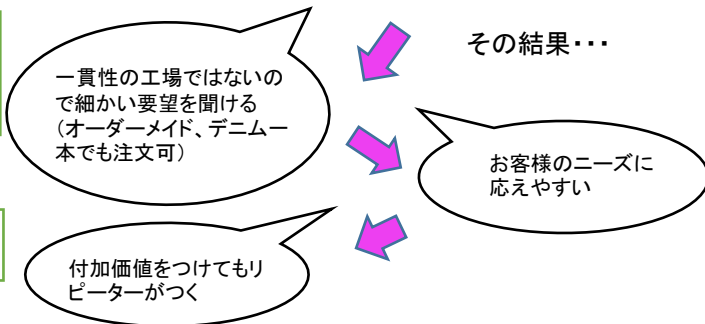
▶写真)美東(有)にて

▶写真) (株)カマダ.JPNにて

☆分業体制



児島は、それぞれの工程で独立しており、デニムを分業で製造している！



生地から販売まですべて岡山県内で行っている

4. 考察

児島がデニム産業として栄えることができた要因は...

環境要因

- ・戦国時代、土地的に綿花栽培に向いていたこと
- ・綿花を使用して二次産業として作られていた足袋とジーンズの作り方が偶然にも似ていたこと
- ・米軍が作業用デニムを日本に置いていったこと

資源要因

- ・分業体制をしている児島には、小さいコミュニティが築き上げられており、協力体制が整っていること
- ・日本人の性格上、完璧な商品が求められる世の中であるため、B品がなく、丁寧な作りであるため、デニムが販売された当初、米と比べて強みであったこと
- ・児島をなによりも愛しており、児島をもっと活発にしたいという気持ちが大きく、それが産業発展につながっていること

【参考文献】

- 画像で振り返るジーンズ142年の歴史
- ジーンズの発祥から日本での歴史が一目でわかる「日本のジーンズの歴史」インタビュー-BIGJOHN(株)水玉氏 (2017/7/8.AM10:00-PM12:00)
- インタビュー-美東(有)西山氏 (2017/7/8.PM13:00-PM14:40)
- インタビュー(株)カマダ.JPN鎌田氏 (2017/7/8.PM15:00-PM16:30)

☆調査にあたって、貴重なお時間に、インタビューをさせて頂き、ありがとうございました。